

集会案内

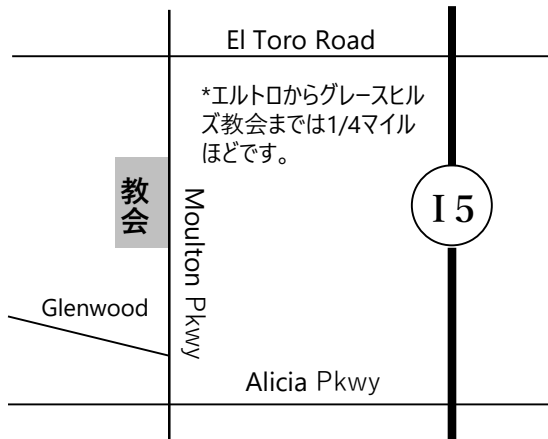
毎日曜日： 祈 禱 会 1 : 1 5 p m - 1 : 4 5 p m
礼 拝 2 : 0 0 p m - 3 : 2 0 p m
茶 菓 3 : 3 0 p m - 3 : 5 0 p m
聖書研究 4 : 0 0 p m - 4 : 5 0 p m

毎月1回： 家庭集会 ラグナ・ウッズ、又はアーバイン
10 : 30 a m ~ 昼食

教会住所： c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637

- ◎ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ◎ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。
- ◎ 12年前に始まった日本語教会です。どなた様もお気軽にお出かけ下さい。

教会の地図



 Irvine Nihongo Kyokai

連絡先：

杉村 宰 牧師 電話：(714) 527-1456
Eメール：sugimura1950@gmail.com

田畑 彰 牧師 電話：(949) 701-6502
Eメール：mt.moriya77@gmail.com

Rev. Tsukasa Sugimura

◎石叫
アラスカにそびえる北米大陸最高峰・デナリ(6190m・かつてのマツキンリー)。ここに二〇一七年五月、日本人スキーヤーの佐々木大輔(40歳)が前人未到の冒険に挑んだ。その頂上付近から滑降をするというのだ。デナリは北極圏近くにそびえる独立峰のため、頂上の気温は夏でも氷点下30度以下となり、秒速30mの猛烈な風が吹く。それは人が簡単に吹き飛ばされる風速だ。酸素は平地の4割しかなく「人間が生存できる限界を超えた場所」ともいわれる。その極限状態で急斜面を一気に滑り降りるには、想像を絶する体力と気力、そして最良の滑降ルートを一瞬にして見極める研究が求められた判断力が必要となる。滑降の前年、一緒に滑る狩野恭一と新井場隆雄らと下見にでかけた。そして実際に頂上付近まで登り雪質を確かめた。そのようにして滑降に備えたのだった。

日夜トレーニングに励む佐々木を支えるのは、かつてスノーボーダーとして五輪に出場したこともある妻の陽子さんだ。夢を追い続ける佐々木を見守り、3人の幼い子を育ててきた。「冒険とは、生きて帰ること」とは一九八四年、四十三歳で厳冬のデナリに消えた植村直巳の言葉だ。佐々木はこの言葉をかみしめながら滑る。3人の愛する幼子と妻のためにも命を失う訳にはいかない。

山岳滑降で危険なものが雪崩である。アラスカに入ってからでも、何度となく雪崩が起きていた。佐々木らはカシンリッジという尾根を三日ほどかけて山頂付近まで達する計画だが、そのためには深い雪の中をラッセルしなくてはならず、雪崩の危険もある。それにはスキーでターンをすることに よっても雪崩が起る。佐々木はそれで過去、二度も雪崩に巻き込まれ命拾いしている。

さて、デナリに入ってから三六日目、いよいよ滑降が始まるのだが、中腹付近ではガスが立ち込めていて、うまく滑られる状態かどうか余談は許さな い。このチャンス逃したら登山シーズンが終わり、デナリ滑降はできな くなる。行くも留まるも佐々木の決断次第である。それに一旦滑降が始ま ると、途中、どんなアクシデントが待っているか分からない。一瞬で生死 が決まる世界だ、生きる保証はない。だが、佐々木はスタートした。彼の 生涯の夢に向かって！

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と信徒達の協力ですべての毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。